



写真2 珍島アリラン村

side Village in Japan - Traditional Positioning Technique “YAMAATE”

● 11月13日 エクスカーション1

国立海洋文化財研究所・木浦郷土文化館・曾島塩博物館・太平塩田・花島の露頭・Blue-spotted mud hopper Bridge・新安海底遺跡物発掘記念碑

● 11月14日 エクスカーション2

珍島大橋（鳴梁海戦）・龍蔵山城・雲林山房・珍島歴史館・珍島郡立民俗芸術団・南桃鎮城・珍島アリラン体験館

● 感想

2017年度は、日本常民文化研究所主催で開催する予定なので、その視点での感想を盛り込んだ。

- ・至れり尽くせりのフォーラムとエクスカーションであった。
- ・フォーラムの発表時間が短すぎた。1日半にして、ゆったりとした発表会を検討する必要があるのではないか。
- ・質疑応答は英語を基本としていたが、英語を解さない参加者も多くいた。神奈川大学では、中国語と韓国語の参加者を通じた質疑応答が必要かと思われる。
- ・国立海洋文化財研究所は、大変興味深い研究所であり、今後の交流を考えたい。
- ・海洋研究をする東アジアの研究者の集まりであり、交流が盛り上がった。今後は、実質的な研究分野での更に密度の濃い交流が求められる。
- ・フォーラムにも担当校の特色をもっと出してもよいのではないか。
- ・昼食・夕食、エクスカーションはすべて担当校負担であり、予算・内容を含めた再来年の計画は、機構・常民以外の学内他部署を巻き込み、早めにたてる必要がある。